

上記の傾向は肺／心筋放射能比が大きいほど顕著で、心機能が低下し肺野集積が亢進している症例では注意が必要と思われる。

28. ^{123}I -MIBG の投与体位 (臥位, 座位) と肺集積の検討

小林 秀樹 井口 信雄 寺田信一郎
牧 正子 日下部きよ子 (東女医大・放)
細田 瑳一 (同・循内)

^{123}I -MIBG 心筋シンチグラフィでは、肺や肝の高集積例を経験することがある。低心機能例では、肺野の集積が高く、SPECT 像で前壁～側壁心筋と肺野が連続して描出される例も見られる。当院の初期施行の MIBG 50 例は、臥位で MIBG を静注し、以降の症例は安静座位で MIBG を静注しているが、座位投与例で SPECT の画質不良が多い印象であった。本検討は、MIBG の投与体位 (臥位, 座位) により、肺集積のパターンが変化しているのが明らかにするため、臥位投与 23 例と座位投与 15 例を対象として、左室心機能と肺集積の関係を検討した。方法は、15 分後プラナー像の右上肺野と中肺野および上縦隔に ROI を設定してカウントを算出し、上／中肺野カウント比、肺／縦隔カウント比を算出した。そして同値と、LVEF との関連を検討した。

座位投与例では、上／中肺野カウント比と LVEF の間に、負の相関傾向が認められた。臥位投与例では、上／中肺野カウント比と LVEF に関連はなかった。臥位、座位投与例ともに、肺／縦隔カウント比と LVEF に関連はなかった。以上の結果から、低心機能の症例では、MIBG の座位投与において、上肺野の MIBG 高集積の傾向が認められた。低心機能症例において座位で MIBG を投与すると、上肺野の高集積をきたす例がある結果であり、SPECT 像の画質不良の原因になると考えられた。肺血流シンチとの検討や、同一症例での臥位、座位投与による変化を検討することで、肺血流との関連等がよりはっきりすると考えられる。低心機能例を対象とした、MIBG 心筋シンチでは、座位よりも臥位で投与することにより、MIBG 心筋像の画質低下の一因である上肺野の集積を軽減できると考えられた。

29. 興味ある ^{123}I -MIBG 心筋 SPECT 所見を示した心筋炎の 2 例

秋元奈保子 塚原 玲子
(健保総合川崎中央病院・循)
上嶋権兵衛 (東邦大・二内)

症例 1 32 歳、女性。平成 7 年 1 月 9 日心不全で入院。心エコー上びまん性壁運動低下と心嚢液貯留を認め、心筋炎と考えられた。3 週後の心不全改善時には心エコー上壁運動は正常化し心嚢液も消失。同時期の安静時 ^{201}Tl および ^{123}I -BMIPP 心筋 SPECT は、正常であったが、 ^{123}I -MIBG はびまん性集積低下を呈した。8 か月後には ^{123}I -MIBG は正常化した。

症例 2 44 歳、女性。平成 7 年 7 月 17 日心不全で入院。心エコー上びまん性壁運動低下と心嚢液貯留を認め心筋炎と考えられた。3 週後の心不全改善時には心エコー上壁運動正常化、心嚢液消失。同時期の安静時 ^{201}Tl および ^{123}I -BMIPP 心筋 SPECT は、前壁に軽度の集積低下を認めるのみであった。 ^{123}I -MIBG は全く集積を認めなかった。壁運動の正常化と心臓交感神経機能正常化に時間的差異がみられる、興味ある症例を経験したので報告する。

30. $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -GSA SPECT による劇症肝炎の局所肝機能評価

池田 実徳 下山田和裕 片山 信仁
伊藤 隆志 築根 吉彦
(帝京大溝口病院・放)
井上 優介 (東大・放)

劇症肝炎は、死亡率 90% ともいわれ、死亡率の高い疾患である。肝移植が唯一の予後を改善する治療法とする報告もなされている。種々の肝機能マーカーをもってしても、この疾患の予後・肝移植の効果を予知することは難しい。

肝細胞に特異的に発現されているアシアロ蛋白レセプターに親和性を持つ $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -GSA によるシンチグラフィは、肝機能をよく反映する。さらに、SPECT によって高空間分解能画像を得ることが可能である。

われわれは、劇症肝炎 3 症例 (回復例 2 例, 死亡例 1 例) に対し 4 回の $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -GSA を用いた SPECT を行い、2 例において局所肝機能を反映すると考えられる